



白い雲と 緑の風と 黒い家

ー大団円のための犠牲は誰だー

1996.

8/1_(木) - 5_(月)

A 市民会館

渡辺大輝

酒井さち子

天音タロウ

岡田ゆかり

ひかり芸能社主催
作・演出 天音タロウ
音楽 花火りんご

あらすじ

明治時代の日本、ある地方の小さな村、黒桜ヶ原と言われる場所に古びた家が佇んでいる。この家は村の人々から「黒い家」と呼ばれ、かつての権力者の家であり、今は廃墟と化している。その家には、長い間封印されてきた秘密が隠されているという噂があった。

物語は、若い新聞記者の田中一郎がこの村を訪れるところから始まる。一郎は新政府の樹立に伴い、全国各地を巡って新しい時代の風景取材していた。彼は偶然出会った盲目の僧侶から村で語られている噂を耳にした。「黒い家は生命を司る何かが眠っている」

一郎は村に滞在する間、村の歴史を学び、村人たちとの交流を深める。村の人々は当初、外部の人間に対して警戒心を抱いていたが、一郎の誠実な態度に次第に心を開いていく。そんな中、一郎は村の学校の教師であり、自由民権運動の支持者である石川美咲と出会う。美咲は、かつて黒い家に住んでいた一家の末裔であり、彼女自身もその家の過去について知っていた。

美咲は一郎に対して協力を申し出るが、彼女自身も家族の過去に向き合う勇気が必要だった。二人は村の古老である大久保健太郎を訪ねる。大久保は黒い家にまつわる生奪命宿の伝説や、その家が村にとってどれほど重要な存在であったかを語る。彼は、家の中に隠された地下室の存在と、そこに秘められた財宝と重要な文書の話をする。

一郎と美咲は、村の伝統行事や古い文書を手がかりに、黒い家の内部を探索する。古い書物や隠されたメッセージを解読しながら、二人は家の奥深くへと進んでいく。やがて彼らは、家の中に隠された地下室に辿り着く。暗く埃にまみれの地下室、そこには「蕃神百伝事」と書かれた本と村の運命を変える重要なものが隠されていた…。

キャスト



渡辺大輝



酒井さち子



岡田ゆかり



天音タロウ



花火りんご

公演日程

1996年8月1日[木]～8月5日[月]

8/1[木] 2[金] 3[土] 4[日] 5[月]

13:00

11:00

19:30 19:30

18:00

19:30

16:00

チケット

一般 2000円 高校生以下 1000円 当日券+300円

※日時指定/自由席

※高校生以下は、確認のできる身分証明書をご提示ください。

※未就学児入場不可

公演会場

A市民会館

〒000-0000 XX県 A市 鏡見 2-23

電車:「見守駅」2番出口から徒歩15分

バス:「見守神社前」バス停徒歩5分

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

